

青梅市文化財ニュース

第338号

平成27年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立第五小学校

この文化財ニュースでは今まで、市立第四小学校まで紹介してきました。これからご紹介する市立第五小学校は、旧吉野村の学校です。

今まで何回もこの紙面で書いてきましたが、吉野村が誕生したのは明治22年の市制町村制が施行されたことによるもので、「……一般ノ人民必ス邑ニ不学ノ戸ナク家ニ不学ノ人ナカラシメンコトヲ期ス、……」という「学制」が頒布された明治5年8月2日時点では旧吉野村ではなく、畑中村・日影和田村・下村・柚木村というだいたい今の町名に当たる各村々でした。したがって、学制が頒布されてからできた学校は、今の町名に当たる各村で作った学校となり、畑中には畑中の、和田には和田の学校ができたわけです。

明治5年8月、学制が頒布され、学校を早急に作れということから各村々ではあわてて学校を作ります。そのようなわけで青梅市やその近辺でも、明治6～7年にできた学校が多いのです。

明治6年6月30日、勉習学舎（畑中学校）は地藏院に、同年7月20日日、和田学舎（日影和田学校）は徳昌寺に開校しました。下村では明治6年7月2日に好文学舎が天沢院に、柚木村には柚木学舎が同年6月10日に円光院にて産声を上げました。どの村の学校を見てもわかるように、設立されたとはいってもお寺の一部を間借りしての開校でした。他地区の村もそのような状況でしたので、政府は新しい校舎の建築を奨励しました。ところが、梅郷地区の各村々は一村での校舎建築は無理であるとし、明治10年6月「江南学校」と名称統一して共同で新校舎を建築しようとし、新校舎を下村下分に建て、下村と日影和田村の子供たちは本校へ通って畑中村と柚木村には支校を設立することになりました。しかしながら多摩川に沿って細長く住民が居住する梅郷地区に学校が1校では通学が困難であるとし、すぐ県に分離願いを出しています。そして、明治12年7月に県より許可が下りました。4か村で江南学校1校という時代は、名前だけのわずか2年間で終わり、各村々で校舎を建築することになったのです。即ち、畑中村・日影和田村の2か村合同で「中和学校」を、下村は「江南学校」を、柚木村は「柚木学校」を設立することになりました。しかし、これも中和学校の校地の場所の選定で行き詰まり、明治15年12月には、わずか3年で分離していったようです。そして、畑中村は単独で畑中学校を建築し、日影和田村の生徒は中和学校から江南学校へ編入となりました。明治19年4月には畑中学校が江南学校の畑中分校となりました。

明治22年4月には市制町村制が公布され、「吉野村」が誕生したことにより、吉野村立「江南学校」と「柚木学校」の2校が並立することになりました。そして、明治25年に江南学校は、村立「吉野尋小学校」（高等科は明治29年11月17日に併設）と校名を改めます。市域が神奈川県から東京府に移管された明治26年4月には「柚木学校」も村立「柚木尋常小学校」となりました。（注1）

明治40年4月、小学校令が改正されて、義務教育年限がそれまでの4年から6年に延長されました。これに伴い、同年7月、柚木尋常小学校を廃止し、吉野尋常高等小学校の「柚木分教場」を置きました。この年になって、本校を村の中心に置き、畑中・柚木の両翼に分校を置く形になりました。しかしながら、高学年になると畑中や柚木から本校に通学することとなり、必然的に校舎や校地が手狭になります。そこで現在地に移転をするのですが、場所の選定にあたってはもめにもめたようです（学区が東西に長いため）。柚木・畑中の両分校から巻尺で長さを計り、その中間地点を校地としたことです。そして、その作業は青年団の人たちが当たり、整地までしたそうです。そして、半分は旧校舎を移築、半分は新校舎を建築し、大正13年5月1日、吉野尋常高等小学校の校舎はこの地に新築されました。ちなみに、畑中分校は現在の畑中保育園の所、柚木分校は柚木町三丁目運動広場にありました。

こうして、新しい学校の落成式が盛大に行われ、この時点でやっと現在の市立第五小学校につながる学校が出来上がったこととなります。

その後、昭和30年には、吉野村は青梅市に編入合併し、青梅市立第五小学校となりました。現在ある校舎の鉄筋化は、昭和44年10月から46年3月まで2期にわたって行われました。そして、昭和46年4月、新校舎完成と同時に、畑中・柚木の両分校が廃止され、1年生から本校（第五小学校）へ、市費によるバスで通う制度が出来上がりました。

開校以来現在まで、7849名が第五小学校を卒業生し、社会で活躍しています。また、第五小学校の校舎前には松野伍秀氏の手による「少年の像」が昭和47年11月に建立され、子供たちの日常を見守っています。

（文責 神森正）



松野伍秀作「少年の像」

注1：明治27年4月16日に吉野地区の中心部を総なめにし、和田まで飛び火する大火事がありました。この火事で江南学校や役場も丸焼けになり、それまでの学校に関する記録も失われてしまったとの事で、設立当初の詳細は正確さに欠けるところがあるものと思われます。